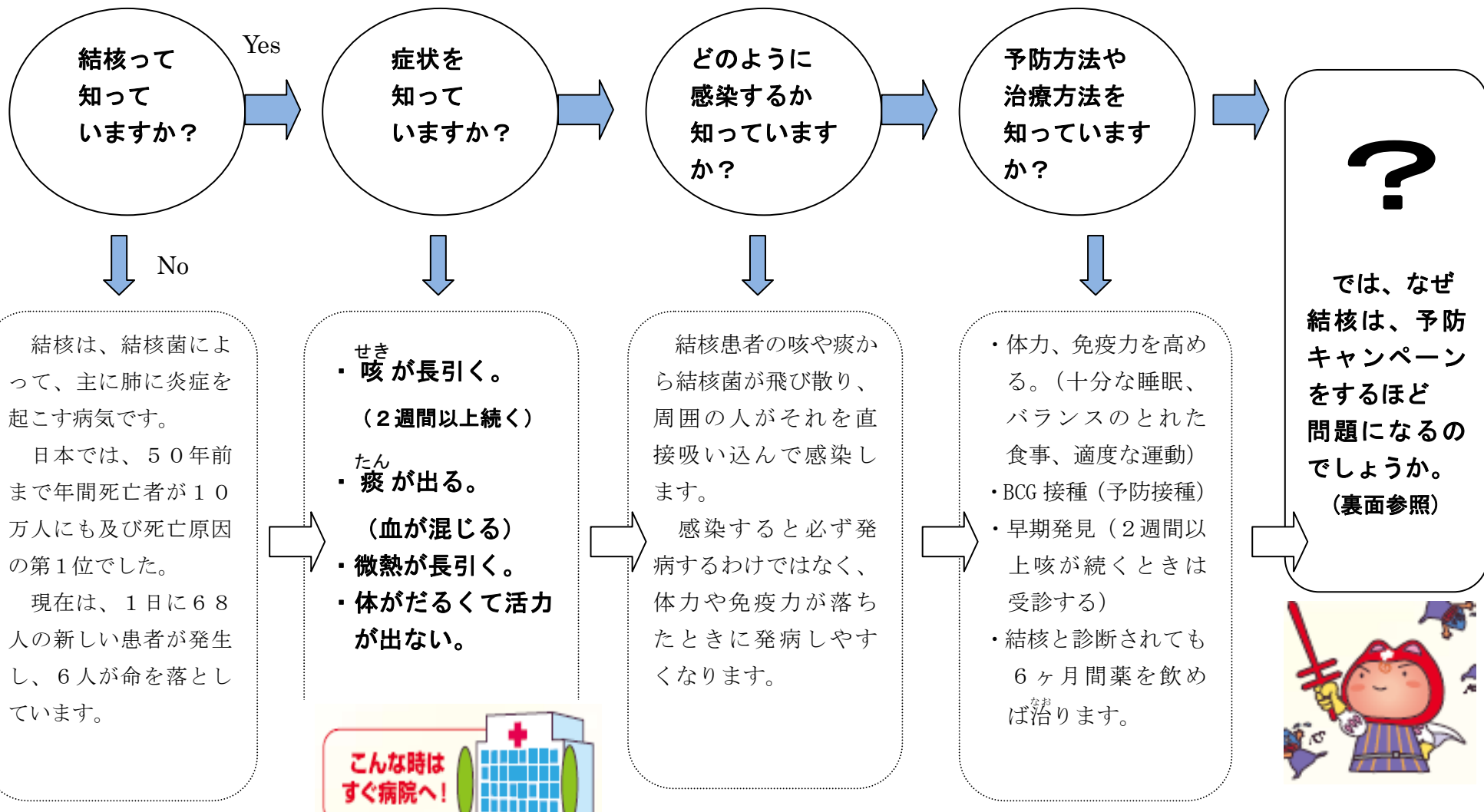


今日から **結核予防週間** です！ (9月30日まで)





1 結核と気づかず周囲にうつしてしまいます！

初期症状は風邪とよく似ているので、咳が続くな～と思いながら医療機関に行かず、診断が遅れることがあります。

1ヵ月以上咳が続く人からは25人に1人の割合で結核患者が見つかっています。

2 集団感染が増加しています！

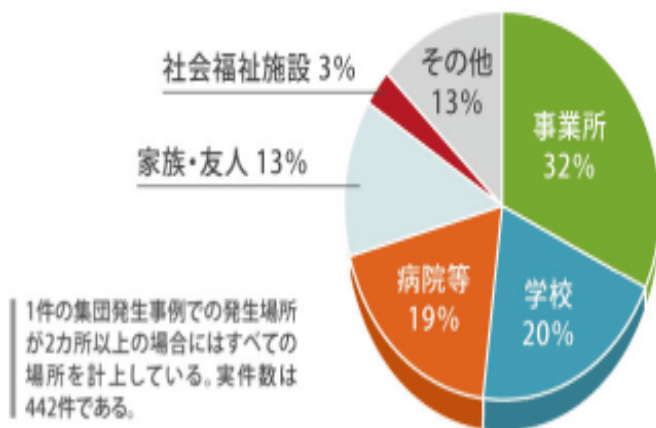
特に、若い世代で結核に抵抗力（免疫）を持たない人が増加しています。

都会への移動、海外との交流、アルバイトなど感染の機会が増えていることや不規則な生活も発病のリスクになっています。

働き盛りの人も発見が遅れがちです。

*大都市罹患率(10万対)
大阪市(50.6)名古屋市(31.6)東京特別区(28.6)

最近の集団感染の発生集団(1999年～2008年、のべ件数=516)



厚生労働省資料、2010年8月

3 感染者がますます高齢化しています！

1990年代、60歳代が一番多かった結核患者は、2001年には、70歳代。2006年には80歳代に移行しています。これらの人々は、青年期に感染し菌が眠っている状態であったのが、糖尿病などの生活習慣病や手術等々で免疫が低下し発病に至ったと考えられます。(高齢化により免疫が低下しやすい状態にあります)

4 結核は、世界の3大感染症の1つ。日本は、世界の中では中まん延国です！

結核とHIV/AIDS、マラリアが世界の3大感染症とされています。

結核は、世界では、総人口の1/3が感染しており、毎年940万人が発病、180万人が死亡しています。HIV感染者の増加も結核のまん延を加速させています。

日本の結核罹患率は、米国(4.3%)、英国(13.9%)などの先進国と比べると19%と高く、「中まん延国」になります。

5 超多剤耐性結核菌が検出されています！

結核は薬を飲むと治りますが、中途半端な飲み方をすると、薬が効かない菌が出現します。近年、結核に使われる主要な治療薬の4種類以上の薬が効かない「超多剤耐性結核菌」が検出されており、東ヨーロッパやアジアを中心に広がりつつあります。